

HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2025 Vol.120

- P1 **特集** 福祉人材養成校紹介
**理学療法士・作業療法士という
プロフェッショナルを養成**
学校法人広島YMCA学園「YMCA米子医療福祉専門学校」
- P5 **チャレンジ福祉の仕事**
学校法人広島YMCA学園「YMCA米子医療福祉専門学校」
- P6 **福祉の専門職をめざして
たくさんの「ありがとう」に励まされながら
「介護福祉士」**
- P7 **福祉人材センター情報**
●11月11日は介護の日
みんなで介護について考えてみませんか？
●福祉の職場で働きたい方と
人材を求める事業所との橋渡しをしています

- P8 **ボランティア・市民活動センター情報**
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
「ヴィシュヌ みんなの居場所寺子屋」
- P9 **ボランティア・市民活動センター情報**
令和7年度 ボランティア体験事業レポート
- P11 **ことぶき高齢者情報**
脳も心も 牌で整う 健康マージャン
- P12 **ことぶき高齢者情報**
いきいきシニア
- P13 **鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ**

医療・福祉分野で求められるスペシャリストの育成



学校法人広島YMCA学園 YMCA米子医療福祉専門学校

鳥取県と島根県との県境に近い「中海」のほとり、
おだやかで美しい湖のような風景を望む地にYMCA米子医療福祉専門学校はあります。
1994(平成6)年の開校は、地域の医療・福祉の充実と、その現場を支える
優秀な人材の輩出を願う米子市民の願いが結実したものです。
そして、理学療法士・作業療法士・介護福祉士の
リハビリテーション系と福祉系の教育の双方を備えた専門教育機関として
31年間にわたり医療と福祉のスペシャリストを養成しています。



理学療法士・作業療法士というプロフェッショナルを養成



理学療法士科：身体の知識と構造について学びます。

YMCA米子医療福祉専門学校（以下YMCA）の特徴は、キリスト教精神に基づく人間性豊かな人材の育成とともに、実績のある充実した講師陣の指導により、極めてレベルの高い専門性を身につけたプロフェッショナルの養成を目指しているところにあります。

養成課程は、4年制の「理学療法士科」と「作業療法士科」、そして昨年度で募集を終了した2年制の「介護福祉士科」があります。

理学療法士（PT）科では、身体

機能回復・動作能力の獲得をサポートするリハビリテーションの専門職を目指す人に、卒業とともに「PT国家試験受験資格」が取得できます。作業療法士（OT）科では、身体と精神の両面から生活能力の回復をサポートする専門職を目指す人に「OT国家試験受験資格」が取得でき、両科では卒業とともに「高度専門士」の称号と「大学院受験資格」が取得できます。

人間力の高い人材の育成

医療・福祉分野のスペシャリストを養成するYMCAの渡邊達生校長は、「医療・福祉人材養成校として最も大切かつ重要なことは、人間力の高い人材の育成だと考えています」と話します。そして「専門職としてレベルの高い知識や技術を身につけることは医療・福祉に携わる者として必要不可欠ですが、他者に共感し、思いやる気持ちを持ち、他者を理解し協調するためのコミュニケーションを図る努力が必要です。周囲

に感謝し、他者に対して謙虚な姿勢をもつことは医療・福祉に携わる者として大切かつ重要なことです」と続けます。

そのような人材育成のために、YMCAでは担任・副担任制度の充実を図っており、様々な生活態度を含めた人格形成の指導を綿密に行っています。

また、学業面においては、経験豊



カフェテリア

かで情熱に満ちたYMCA講師陣に加えて、鳥取大学医学部、島根大学から多数の講師派遣を受け、充実したカリキュラムを実現しています。特に鳥取大学医学部からは多くの基礎医学・臨床医学に関して最先端かつ臨床に即した知識・技術の教授を受け、高い教育の質と充実した教育体制を築いています。

学校法人広島YMCA学園
YMCA米子医療福祉専門学校

わたなべ たつ お
渡邊達生
校長



地域連携や交流も チームアプローチへ繋ぐ

医療や福祉の分野では、異なる専門性を持つ複数の専門職がチームとなり、共通の目標に向けて協力して利用者と患者を支援する「チームアプローチ（多職種連携）」で質の高いサービスの提供を行っています。

教務部長でPT科教員の岩崎裕子さんは「本校では、多くの実習時間がカリキュラムに設定されており、現場で必要となる多職種と連携するためのコミュニケーションスキルや専門性の経験が積めます。また、各科最終学年ではその成果を3科の合同授業で、お互いの職業理解を深め、ケースについて一緒に検討し、発表することでチームア



障害者スポーツでのサポート

プローチに対応できる教育を行っており、対応能力を養うカリキュラムの充実を図っています」と話します。

また、地域との連携やボランティア活動などについて「本校の学生は、地域に出かけ、子どもや障がいのある人、高齢者など様々な人と触れ合い、リアルな現場を知ること、視野を広げ、未来の職場や地域社会で活かせる知識や技術を身につけています」と渡邊校長は話します。

具体的な活動として、スポーツ関連では、認知症の方とのマラソンイベント、スポーツに取り組む中高生向けのメディカルサポート、※、パラデフススポーツのサポートなどを行っています。

地域住民との交流では、手話を学ぶことによる聴覚障がい者や高齢者との触れ合いや、市民へ向けた公開講座を開催するほか、鳥取大学医学部と共同の地区視診や、毎年クリスマスには手作りのプレゼントを鳥取大学附属病院小児病棟に届けています。

充実したサポートで100% 近い国家試験合格率と 就職率100%を実現

入学後、学生が一番戸惑うのは学習面です。岩崎教務部長は、「これまで触れたことのない専門用語や多



理学療法士科:人体の解剖学的構造について基礎知識が定着するよう学びます。

くの専門的知識や技術があるため、基本的な学習スキルを縦割り授業などでサポートしながら学習を進めて行きます。特に、先輩と一緒に学

べる縦割り授業は、単に勉強面だけではなく、生活面でも関係づくりができ、1年生も安心して学校生活に取り組みます」と話します。



渡邊達生校長からのメッセージ

本校では、人間性豊かな人材育成と、極めてレベルの高いプロフェッショナルの養成を目指しています。現在、理学療法士科と作業療法士科の2学科で学生募集を行なっています。理学療法士は身体に障がいのある方の運動能力の回復をサポートするプロで、作業療法士は心身に障がいのある方の日常生活や社会復帰をサポートするプロです。いずれのプロも、「ありがとう。あなたでよかった。」と患者様から言われるように、その力量や熱意が直接患者様の幸せにつながります。いずれも大変やりがいのある仕事です。是非、こうしたリハビリの仕事を目指していただきたいと思います。

本校では、このようなプロの養成のために特に教育に力を入れてきました。その結果、これまでの国家試験合格率は2学科とも全国平均を大きく上回り、就職率も開校以来31年間ずっと100%をキープしてきました。

2学科では4年間学ぶことになります。時間をかけて学習できるため、国が定めた基準を大幅に上回る時間をかけて学外実習を経験しており、即戦力として大きな期待を寄せられています。実際、現場サイドから「是非うちに来てほしい。」との声をよく聞きます。この点は本校就職率が開校以来100%をキープしている理由の一つと言えます。

現在、2,300名を超える卒業生が山陰を中心に活躍しています。その大勢の卒業生のおかげで、本校の学生は、手厚い学外実習の指導を受けられ、就職後も、その先輩たちが丁寧で確かなサポートをしてくれます。

今から10年後には、高齢者の割合が30%以上になり、2040年には高齢者の割合がピークを迎えます。このような中で本校の卒業生の需要はさらに高まるものと確信していますので、皆様のご入学を心待ちしています。

また、担任制度を設けており、担任・副担任の個人面談から、教員が学生の質問・相談に応じる時間「チュートリアルアワー」などでサポートするほか、スクールカウンセラーにも相談に乗ってもらえます。就職に関しては「学内合同就職説明会の開催、担任やゼミ教員による相談、教員による個別の履歴書添削や面接練習なども行い、開校以来31年間、就職率100%のサポート



岩崎教務部長

トを行っています」と岩崎教務部長は話します。

YMC Aでは、P・T・O・T両科ともに国が定めた基準を上回る実習時間で臨床力を養います。そして、4年間でゆとりを持って対策すること、100%近い高い国家試験合格者をキープしており、その卒業生が多くの実習先に勤務していることから、実習中や就職先において後輩をサポートしてくれるというメリットがあるなど、YMC Aならではの特長があります。

また、入試においては、一般の入試に加えて「総合型選抜」というユニークな入試も行っています。これは、クラブ活動やボランティア活動歴など、学業面以外で自分をアピールできる入試制



錦秋祭の様子

度です。そのほか「特待生選抜」では、返済の必要のない奨励金が支給されるなど、免除や補助が受けられる入試形式があるほか、様々な就学支援制度があり、幅広く門戸が開かれています。

【概要】

- 所在地／鳥取県米子市錦海町3-3-2
- 開設日／1994(平成6)年4月
- 運営主体／学校法人広島YMCA学園
- 職員数／専任教員15名、事務職員4名、ほか2名(図書司書)
- 取得資格／理学療法士、作業療法士、介護福祉士(介護福祉士のみ24年度限り)
- 定員／理学療法士科40名、作業療法士科40名(昼間部・共学)
- 修業年限／4年



Challenge チャレンジ福祉の仕事

学校法人広島YMCA学園
YMCA米子医療福祉専門学校

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労することを目指し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

学習面のみならず人間的に成長できる場所

学校法人広島YMCA学園「YMCA米子医療福祉専門学校」

理学療法士科4年生

石井 勇太さん



高校生のときに部活動のサッカーで足にケガをして、クリニックに通う中で「理学療法士（PT）」が身体的なことだけでなく、不安など心理的なことに対しても向き合ってくれたことで安心感が得られ、自分も誰かの不安や困難なことに寄り添える人になりたいと思う」と石井勇太さんは話します。

PTを目指して入学した当初は、「難しいことが多く、学習方法などにも苦戦しましたが、授業の理解も進み、先生と一緒に学ぶ仲間との繋がりを感ぜられたときはうれしかったです」と、当時を振り返ります。

PTは、ケガや病気などで障がいがある人の身体機能の回復を支援し、今後の生活や不安なことに対して寄り添うことで、対象者の笑顔が見られたり、感謝されたりすることが、仕事のやりがいと魅力だと石井さんは思っています。

そのために、客観性を重視して学んだ知識や技術の専門性をもって、対象者に接することはもとより、日々進化する医療分野で学び続ける姿勢や責任感が大切だと感じています。

学校生活で学んできた知識や技術、そして、態度を実習で活かします。また、「実習を通してコミュニケーションの取り方など多くのことが学べ、自分の成長に繋がります。YMCAは、その臨床実習が多いことに加えて、経験豊富な先生方が学習面のみならず、社会人としての基本的な言動もしっかりと指導してくれるところが魅力です」と石井さんは笑顔を見せます。

そして、「二人ひとりにしっかりと向き合い、その人らしい生活や在宅復帰ができるように、思いやりをもって寄り添い、サポートしていきたい」と話します。また、「リハビリでは身体機能の回復と合わせて、生活動作に着目するなど、福祉の現場に就いても、学び続けることを怠らず、知識や技術を積み重ねながら、信頼されるPTになりたいです」と情熱を感じさせます。



豊富な臨床実習や学外での交流で経験が積める

学校法人広島YMCA学園「YMCA米子医療福祉専門学校」

作業療法士科4年生

谷口 泰介さん

谷口泰介さんは、高校での部活動でケガをしたときに作業療法士（OT）という職種を知ったことをきっかけに、誰かの生活や心に寄り添う仕事がしたいと思うようになり、福祉の道を目指しました。



と継続して積み重ねることを意識して学んでいます」と、自己分析をして対処をしています。

OTは、対象者の生活に深くかわかる立場のため、常に専門的な知識や技術の研鑽に取り組み、根拠に基づいた支援を行うことが必要です。また、多職種の中でOTならではの視点から対象者を支えることが求められます。

学校生活では、難しい知識を仲間と一緒に学び、理解できたときの達成感や、技術面でできなかったことができたときに手ごたえを感じながら、「実践の機会が豊富なYMCAでは、実習経験がしっかりとでき、臨床実習以外でも学外での交流が多く、学内では得られない経験ができます」と話します。

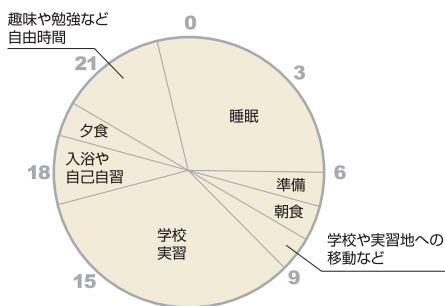
将来は対象者のその人らしい生活を支援できるOTになりたいと話すが谷口さんは、「幅広い疾患に対応し、対象者に寄り添った支援ができるようになりたいので、経験を積み重ね、自分の得意分野や興味のある分野を磨きながら信頼されるOTになりたいです」と、しっかりと歩みを進めています。

また、自分自身は不器用だと言う谷口さんは、「一度に多くの知識や技術を身に付けることが苦手なので、「ツツツ



福祉の専門職をめざして「介護福祉士」

たくさんの「ありがとう」に励まされながら



学校法人広島YMCA学園
「YMCA米子医療福祉専門学校」

介護福祉科2年生 澤田 昊希さん

介護福祉士は、日常生活を営むのに支障がある介護福祉ニーズを有する人に対して、専門的知識と技術で心身の状況に応じたケアを行うとともに、要介護者および介護者（現場職員）に介護に関する指導を行う、介護の資格の中でも唯一の国家資格です。介護業界では人手不足が加速し、介護福祉士の需要はさらに高まっています。

介護福祉の道をめざした動機は何ですか

幼い頃から地域の高齢者と関わるのが好きだったので、高齢者福祉の道を目指そうと思いました。また、叔父が介護の仕事に携わっていたこともあり、利用者として話を聞いて、細かな心遣いをしていく姿を見て、介護の仕事は、ただ単にお世話をするだけでなく、心を通わせることができる大切な仕事だと知ったことも理由の一つです。

介護福祉士の仕事のやりがい・魅力をどのように考えていますか

今までの実習では、たくさんの「ありがとう」をいただきました。利用者から感謝の言葉をいただき、自分が役に立っていると実感できることがやりがいだと感じています。



と思います。また、利用者の人生や生活に深く関わり、その人らしい暮らしを支援することも、この仕事のやりがいだと考えています。

実際に介護福祉士の勉強を始めたときの印象はどうでしたか

最初は、思っていた以上に考えなくてはいけないことが多くあり、簡単にできる仕事ではないと思いました。「自分はこの仕事ができるだろうか」と思うこともありましたが、周りの支えや日々の学習や演習の中で少しずつ自信がついてきました。

学ぶうえで大切にしていることはどのようなことですか

利用者本位の考え方を重視して学びを深めています。実習での些細な発言などに疑問を持ち、小さな気づきを大切にしながら利用者の想いを汲み取り、介護計画や実践をすることを大切にしたいと考えています。

専門職、プロフェSSIONナルとしての自覚について

利用者の生活の質の向上のために、ケアの知識や技術を磨き、責任感を持ち、傾聴の姿勢や共感をするなど、様々なコミュニケーション技法を用いて、一

人ひとりの利用者寄り添った支援をしていきたいと考えています。



学校生活でやり甲斐や手応えを感じるのはどんな時ですか

授業や実習で知識と技術が身につけていると実感できます。また、同じ目標を持つ仲間と励まし合いながら、違う学科との合同授業でチームアプローチの能力が身につけられるなど、とても楽しく過ごせることが魅力です。

将来の夢、展望をお聞かせください

利用者とその家族、みんなを笑顔にできる介護福祉士になりたいです。そして、自分自身も介護の仕事を楽しむことを大切にしたいと思っています。

鳥取県福祉人材センターのご案内

11月11日は介護の日

みんなで介護について考えてみませんか？

高齢化などにより介護が必要な方々が増加している一方、介護にまつわる課題は多様化しています。こうした中、多くの方々に介護を身近なものとしてとらえていただくとともに、それぞれの立場で介護を考え、関わっていただくことが必要となっています。

11月11日 ※厚生労働省HPより
意見公募を行った結果、最も支持の多かった次の名称と日にちしました。「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」を念頭に、「いい日、いい日」にかけた、覚えやすく、親しみやすい語呂合わせとなっています。



鳥取県社会福祉協議会では、小学生と保護者を対象に介護施設等を見学・体験していただく「介護のお仕事バスツアー」を実施しています。

介護の仕事の魅力や内容を知ってもらう機会として毎年大好評です。

【参加者からの感想】

- 体験がたくさんできて、肌で感じる事ができた。子どもも楽しみながら学ぶことができた。
- 実際に施設へ行き、車イス等の体験が出来て良かったです。聞く、見るだけでは分からない事があると実感しました。

鳥取県福祉人材センターの公式Instagramでは、各種事業のご紹介や就職活動に役立つイベント情報、福祉のお仕事の魅力などを発信しています！ぜひフォローをお願いします。



福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県社会福祉協議会（鳥取県福祉人材センター）は、職業安定法に基づく無料職業紹介事業（厚生労働大臣許可）をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行います。

また、人材を求める事業所には、求人の条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。

福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



就職後の定着や
キャリアアップの
ご相談も

まずはご相談ください／

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5

TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341

【開設日】月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

鳥取県保育士・保育所支援センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5

TEL (0857) 59-6342 FAX (0857) 59-6341

【開設日】月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人の登録・求人票の閲覧ができます。

福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索



とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

ヴィシュヌ みんなの居場所寺子屋

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する“きっかけ”を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい／ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体の活動や想いを紹介します。

[ホームページ] <https://www.torivc.jp>



ヴィシュヌは、地域の人と子どもが安心して過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」づくりを目的に、令和五年六月十三日に設立されました。習字やものづくり、季節の居場所づくり、寺カフェやイベントなどを通じて、地域とのつながりを育んでいます。

子どもたちの笑顔が生まれた場所づくりのはじまり

当時、小学生だった娘とその友達、宿題をもって自宅に集合していました。お互い教え合ったり、わからない問題はたずねてきたり、時にはお菓子を作ったり食べたりと、親ではない大人としてかわる機会がありました。そんな子どもたちの様子を見て、家や学校とは違う、気軽に行ける場所の一つになればと思ったのが、寺子屋のきっかけです。子どもが元気でいるためには大人も元気でいることが大切だと感じているので、子どもだけでなく老若男女が集える場所作りを目指しています。

夏の寺子屋で広がる異年齢のつながり

今回、夏休み中に、倉吉市内にある寺院「吉祥院」にて、子ども対象の寺子屋を開催しました。夏休みの宿題をしながら、お昼ごはんを作って食べたり、大学生のボランティアに勉強を教わったり習字に挑戦したりしました。小学一年生～中学生の参加がありました。大きい学年が小さい学年を助けたり小さい子がすることを見守ってくれたり、異年齢ならではの関わりが自然にできていたように感じました。

一人じゃできないからこそ、みんなで育てる場

なにをするにしても、一人でできることには限界がある、ということを感じたのが率直な感想であり気づきです。ボランティアの手助けなしには、難しかったこともたくさんありました。ただ、協力してくださったボランティアからは「子どもたちとの関わりが楽しかった」という言葉をいただき、本当にありがたいと思います。子どもたちが安心して話しかけている場面が見られたことがとても嬉しい光景でした。

少子化の影響もあり、近所に遊ぶ友達がいなかったり近所付き合いが減っている昨今、親や先生(学校や習い事を含め)だけでなく、さまざまな大人や異年齢で関わりながらコミュニケーションをとったり自分のことを話せたりする場が一つでも増えるといいと思います。

人と人がつながることの大切さ

子どものみならず、現代は技術の進



化や人間関係のあり方がめまぐるしく変化し、AIやSNSの発達により、人と人がかわる機会が少なくなっているように感じます。同時に、「コミュニケーションをとることも難しくなっている」と聞きます。どんな時代でも、人は人の中でしか学べないことや育たない部分もあると思います。便利な機能は上手に利用しつつ、これからも人と関わることを大事にしていきたいと思っています。

今年度は、不定期で寺子屋を開催していく予定です。今後の予定として、外部講師による「コミュニケーション講座(12月開催)」「簡単足踏みセルフケアなど、誰でも参加できる寺子屋を考えています。

**ヴィシュヌ
みんなの居場所寺子屋**

代表 湯浅 香織

【問合せ先】

住所 倉吉市西岩倉町2-100

電話 0855-88-2211(直通)

メールアドレス

yusakaori@gmail.com

令和7年度 ボランティア体験事業レポート

自分が誰かの 役に立つことの喜びを感じて

鳥取県社会福祉協議会と各市町村社協の主催で毎年行われる「ボランティア体験事業」は、福祉の心を育む取り組みとして、県内の高校生以上の人に福祉施設やボランティア団体での体験を通して、社会福祉への関心と理解を深め、福祉活動への参加促進を図ることを目的として実施しています。

今年も夏休み中の高校生が、鳥取砂丘の入口にあたる鳥取市浜坂に位置し、様々なケアサービスを提供する複合施設「いなば幸朋苑」新しいなば幸朋苑でボランティア体験を行いました。



大きな建物が建ち並ぶいなば幸朋苑と新しいなば幸朋苑

大切な学びと 成長の機会として

ボランティア体験には、短期受入型と長期継続受入型があり、今回取材した高校生たちは7月から8月



中尾一成施設長

の期間に3・4日連続して、午前9時から午後4時の間活動する短期受入型で、高齢者の方々とふれあうなどの体験をしました。

毎年ボランティアを受け入れている新しいなば幸朋苑の中尾一成施設長は、「若い世代が福祉の現場を肌で感じ、自分の力を他者のために使う経験を通じて、大切な学びと成長を得られる機会になっていると思います」と話します。

また施設側においても「私たちにとても新鮮な視点や活気をもたらす素晴らしい機会になっています」と、中尾さんは笑顔を見せます。

苦手なことを克服したり 視野を広げるために

この日、高校3年生の二人が、幸朋苑の広大な敷地の一角にある「グループホームはまさか」で3日目の体験活動をしていました。



小林瑞季さん



上根咲那さん



利用者に動物の写真を見せて、名前を問いかける上根咲那さん

1年生の時から毎年、高齢者施設でボランティアをしてきたという、鳥取敬愛高校の上根咲那さんは「高齢者の方々とふれあうことで、学校や日常生活では得られない経験や気づきが得られ、自分の視野を広げ、人とかかわるうえで大切な姿勢が学べる」と考え参加しています」と話します。

大学進学を目指し、将来は地域に関わる仕事に就きたいと話します。



風呂上がりの利用者の頭髪をドライヤーで乾かす小林瑞季さん

鳥取県ボラセン
キャラクター
「はーちゃん」



また、鳥取城北高校の小林瑞季^{みずき}さんは「ごども食堂や地域イベントでボランティア活動をしたが、進学前に年代の異なる人と関わる体験をしたいと思い参加しました。自分から話しかけることが苦手ですが、今回、利用者の方々とたくさん話すことができたことは、少し成長したかなと感じています」と微笑みます。

喜びとやりがいを感じられる体験

いなば幸朋苑のボランティア受入担当者の青木康浩相談支援室・係長は「今年の高校生のボランティアは、男女合わせて7名に参加してもらいましたが、御利用者の元気に活動される姿を見たりふれあったりすることで、介護のことを知り感じてもらう



西村結芽さん



日下部璃香さん

良い機会だと思っています。また、若い方が来ると御利用者も喜ばれ、施設に活気が出るよう歓迎しています」と受け入れに前向きな姿勢です。

異なる日には、八頭高校1年生の二人がデイケアセンターで体験をしていました。そのうちの一人、日下部璃香^{りか}さんは「将来は医療関係の仕事に就きたいと考えていて、あまり高齢者の方と交流する機会がないことから、この体験を通してサポートの



青木康浩係長

仕方などを学びたいと思って参加しました」と、初めは緊張したものの楽しく過ごせたと話します。

福祉関係の仕事に興味があり参加したという西村結芽^{ゆめ}さんは「利用者のためになることを心がけて、「コミュニケーションのとり方を考えましたが、利用者から笑顔で感謝の言葉をもらった時は、とても嬉しかったし、この仕事のやりがいを感じました」と、成長がうかがえます。

他者への思いやりと人と人とのつながりから

ボランティア体験の最終日に取材をした4名の高校生は、いずれも有意義な体験だったと話します。

3年生の二人は、「相手の気持ちや自立を尊重する姿勢の大切さを学びました」と上根さん。「地域に関わる仕事かしたいので、将来に活かせる体験になりました」と小林さんも話します。

1年生の二人は、「看護師になりたいと思っていますが、相手と話すときの目線や言葉づかいなど、勉強になりました」と日下部さん。「進路選択に役立てればと思います」と話しましたが、人の役に立ちたいと考えていたところに、その喜びを感じられて良かったです」と話す西村さんをはじめ、みなさんが福祉の仕事の

大変さとともにやりがいを感じられたようです。

中尾施設長は「体験を通して、他者への思いやりや現場が取り組むチームケアの大切さを学んでもらいたいですね。そして、自分が誰かの役に立つことの喜びを感じてもらい、人と人とのつながりの中で生まれる、温かさとともにやりがいを実感してほしいと思っています」と話します。

福祉の現場では、「コミュニケーションの中に細やかな気配りが欠かせません。そこに気づくことで、お互いに理解を深め、ともに未来の福祉を考えるきっかけになれば、ボランティア体験はより有意義なものになります。



利用者と折り紙をする西村結芽さん(左)と日下部璃香さん

脳も心も 牌で整う 健康マーじゃん

鳥取県社会福祉協議会では、
ニュースポーツ用具としてマーじゃん卓と牌を貸出しています。
あなたも健康マーじゃんを楽しんでみませんか。



立の防止など、健康面・福祉面でも効果が期待されています。実際に、地域の公民館や福祉施設では、健康マーじゃんを通じて高齢者同士の交流が生まれ、心身の健康維持に役立っているという報告もあります。

医学的な観点からも、麻雀は脳の活性化に効果的な活動とされています。麻雀は、136枚の牌の中から

健康マーじゃんは、「賭けない・飲まない・吸わない」を基本理念とし、麻雀本来の知的ゲーム性を活かしながら、誰もが安心して楽しめる競技です。従来の麻雀に対する「賭け事」「不健全」といったイメージを払拭し、健全な娯楽として高齢者を中心に広く普及しています。この健康マーじゃんは、単なる遊びではなく、認知症予防、社会的孤

役を作るために記憶力・判断力・集中力を総動員します。捨て牌の記憶や相手の手の予測、点数計算など、複雑な情報処理を繰り返すことで、脳の海馬や前頭前野といった認知機能を司る部位が活性化されることが研究でも示されています。また、指先を使って牌を並べたり操作したりすることで、脳の運動野や感覚野にも刺激が加わ

り、脳全体の活性化につながります。さらに、麻雀は対人ゲームであるため、自然なコミュニケーションが生まれ、社会的交流を通じた精神的な安定や孤立の防止にも寄与すると期待されます。これらの要素が複合的に働くことで、認知症の予防や症状の改善に効果があらわれるとされており、実際に介護施設や医療機関でも健康マーじゃんが導入されるケースが増えています。また、近年では若年層や女性の参加も増え、世代を超えたコミュニケーションの場としても注目されています。初心者向けの講座やマナー指導が充実しており、麻雀未経験者でも安心して始められる環



境が整いつつあります。

こうした背景のもと、健康マーじゃんの競技化・大会開催の動きも活発になっています。全国各地で健康マーじゃん大会が開催され、技術を競い合うだけでなく、参加者同士の交流や地域活性化にもつながっています。競技としての健康マーじゃんは、勝敗よりもフェアプレイとマナーを重視し、誰もが気持ちよく参加できることを目的としており、年齢や経験を問わず、誰もが楽しめる「生涯スポーツ」としての可能性を秘めています。

お気軽にお問い合わせください。



【問合せ先】

生涯現役推進室

☎ 0857-506666

● ホームページ

https://www.tottori-wel.or.jp/common/rental_top/

人生まだまだこれから

いきいき シニア

ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を
同世代のことぶきレポーターが取材をします。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしてい
る人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介します。

倉吉打吹公園に隣接するスポーツセンターでは若々しいシニア世代の女性たちが、賑やかに声を響かせ、はつらつとバウンスボールを楽しんでおられます。今回はこのグループを結成し長く活動されている、稲田淑子さん、山本廣子さん、渡邊和江さんにお話を伺いました。



バウンスボール

で、子どもから大人まで、誰でも気軽に取り組め、それぞれに合わせた運動ができ、楽しみながら体を動かします。一方では様々な大会に出場して力だめしを行うこともできます。簡単なようでもなかなか技術を必要とする競技です。折しも山本さんにとっては、人生の新たな章を開く年と重なり、多くの同年代の女性とともに参加されたそうです。

足しました。お花が好きな彼女たちが、綺麗で明るく楽しいことを思い、「幸せが訪れる」というルピナスの花言葉に願いを込めて名付けました。

現在のメンバーは12名。年代は50代～80代。和気あいあい楽しみなが、試合出場にも意欲を持っています。この間、メンバーの入れ替わりがありながらも、新しく加わった人たちはすぐに馴染み、和やかに活動してきました。「活動の幅も広がり、新年会、忘年会、食事会、時には旅行等もあり楽しいですよ」と稲田さん。また、「毎年の試合に参加したり、バウンスボールを通して出会いを楽しんだり、人生が充実している」と山本さんと渡邊さん。シニア世代の女性にとつて、「楽しみがある」「行く場所がある」「仲間がいる」とことは、元気に輝くための源なのだと感じました。バウンスボールの枠を飛び出し、仲間と助け合いながら楽しい輪を広げ、家族のように穏やかで充実したシニアライフを送る姿が、とても羨ましく感じられました。

さんは、健康的で華やかに輝いていて、とても素敵でした。

★『ルピナス』では今も新しいメンバー大歓迎です。どこかの会場で『ルピナス』を見かけて気になったら、気軽に声をかけてください。お待ちしております。



『ルピナス』の皆さん

取材を終えて一言

米田 睦栄さん(倉吉市)



皆さん「足や腰の不調を持ちながらも仲間との楽しい時間が明日の元気の源になっているようです。私も、当たり前のように前的小さなことも大切に人生を楽しみたい」と思いました。

鳥取県福祉研究学会第19回研究発表会 研究発表募集中!

鳥取県内の福祉現場での実践活動の成果や課題、ノウハウを関係者で共有、発展させていくことを目的に、成果を共有し合う場として研究発表会を実施しています。

募集期間: 令和7年 8月1日(金)～令和7年 12月15日(月)

1 発表対象者: 鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している者、福祉に関する調査研究をしている者、その他福祉に関心を持つ団体・個人

2 募集内容: 口述発表とポスター発表の2種類あります。※既に職域・職能団体の研究・研修会で発表済みの内容についても対象です(県内外を問わず)。研究及び発表にあたっては、鳥取県福祉研究学会研究倫理要綱を遵守してください。

(1)口述発表(奨励賞の該当区分)

No.	分野	研究発表例
1	高齢者福祉(施設系)	介護、高齢者虐待防止、認知症ケア、地域密着サービス、生きがい対策等
2	高齢者福祉(在宅系)	
3	障がい児・者福祉	生活介護、生活自立訓練、就労支援、社会参加促進等
4	児童福祉	児童養護、保育、情緒発達支援、母子・父子家庭支援、児童虐待・DV防止等
5	地域福祉	地域福祉計画、住民福祉活動、福祉教育、ボランティア等
6	その他社会福祉領域	共生型ホーム、生活保護、成年後見、権利擁護、企業CSR、食育等

(2)ポスター発表(奨励賞の非該当区分)……特に分野を分けての募集はしません。

3 開催日: 令和8年 2月21日(土) 10:20～15:30 (予定)

4 会場: 鳥取看護大学・鳥取短期大学(倉吉市福庭854 電話0858-27-2800)

●お問合せ・申込み先: 福祉人材部(鳥取県福祉研究学会事務局) TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

そんなときは…

とっとりボランティアバンク

ボランティアの力を借りたい

誰かのために力になりたい



ボランティア
したい人(団体)

登録すると何ができるの?

ボランティア募集や関連講座・研修などの情報を受け取ることができます。

どんな活動があるの?

災害支援

豪雨や台風で被災した地域では土砂の除去や家具の運び出し等を行いました。

生活支援

話を聞いたり外出を支援したり、大雪の時は雪かきなど様々なボランティアを行っています。

ご登録
ください!

登録方法

登録票に必要事項を記入のうえ、FAX、Eメール、郵送等で送付してください。

HP <https://www.torivc.jp/>

※HPから直接申込可能!



ご利用・ご登録は
全て無料です



ボランティアの
力を借りたい団体

HPやメルマガを通じて、ボランティア募集や関連講座・研修などの情報を発信できます。

※過去の活動の一例です

【お問い合わせ・ご相談は】

福祉人材部 鳥取県ボランティア・市民活動センターまで TEL0857-59-6344 FAX:0857-59-6340
ボランティアに関するお悩み・ボランティアの募集や関連講座の情報等お気軽にご相談ください!

令和7年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン
保険金の種類			
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額	4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

商品パンフレットは
コチラから(ふくしの保険
ホームページ)

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

